



～ガンは簡単に治る？ 新説のご紹介～

弊社の中でもいきなりステージ4のガンが発覚して、死に至ってしまった従業員がおり非常に心を痛めています。でも、一方では1年半の闘病後に治癒して職場復帰した者もあり、今やガンは絶望的な病でもなくなってはきました。何よりも早期発見が重要事なのですが、放射線治療や抗ガン剤治療など、60万円～100万円は軽くかかってしまうものです。ところがどっこい…！

人間の体の中では、細胞分裂が繰り返し起こることでなり替わってゆき、細胞内に存在する遺伝子によってコントロールされている。増えすぎないようにコントロールもされており、また放射線などの曝露によって遺伝子が傷つくと『アポトーシス』によって細胞自らが命を絶つという仕組みです。現代の西洋医学では、アポトーシスが正常に働かず、修復不可能となった遺伝子が暴走し、細胞分裂をコントロールできずに異常な細胞が増え続けるのがガンだとされています。(通説・遺伝子突然変異説)ところが、今や常識ともいえるこのガンの発生メカニズムは、実は科学的には証明されたものではないというのです。

我々の体の中では、毎日数千個単位で遺伝子の変異が生じているのですが、ガンになる人・ならない人がいるのはなぜなのでしょう？多くの医師は、これを個人の体質、生活環境、免疫力の差などで説明しようとしていますが、いずれも科学的根拠はないのです。

中でもすい臓がんは始末が悪く、手術したり抗がん剤を使ったりしても5年後の生存率は10%しかないと言われています。心臓と脾臓ではガンは発生しませんが、遺伝子突然変異説ではこれを説明できません。これ程にガン治療も進んできたにもかかわらず、なんかおかしいですね。通説・遺伝子突然変異説を疑ってみる必要もあるのです。

イタリア人外科医のシモンチーニ博士は、ガンを真菌(カビの一種)の異種である『カンジダ菌』説を唱えだしました。

心臓と脾臓は人間の体の中でも特に温度が高く、真菌は温度の高いところでは生きられない。また結核患者にはガンはないというのは知られた話ですが、肺のみならず全身が結核菌で覆われているために、真菌は繁殖できない。この点に関しては通説では説明ができないのです。この様に臨床現場では『ガン・真菌説』を支持するような不思議な現象がたくさんあるそうです。



なぜシモンチーニ博士はそういうのか、ガン患者のほぼすべてがカンジダ菌が大量に検出される点は誰もが認めている。(ガンとカンジダ菌の大量発生は97%の相関関係があるという論文もある。)カンジダ菌は体中どこにでも存在する『常在菌』です。そしてガンはこのカンジダ感染に対する防御反応だと考えた。ストレスなどで免疫力が低下してくると、カンジダ菌が増殖して組織の上皮(各臓器の皮)にコロニーを作る。これが内部に浸透してゆくのだが、体はこの外敵を許さじとして腫瘍を形成して包み込もうとする。こうして中身は真菌で、これを包みこむように大きな腫瘍となってゆくのがガンだという説。この説ではガンが転移するのは容易に説明がつく。シモンチーニ博士は、『治療的診断』(原因が明らかでないときに、特定の疾患を想定して、それに有効な治療を施してみる)によって、ガンの原因を真菌であると想定したうえで、真菌の治療をガン患者に行った。その結果、ガンは感知することに成功しており、なんと96%の治癒率を誇っている。

完成した方法は、『重曹殺菌法』…。そう、100円ショップでも売っている『重曹』でもって真菌を退治してしまうのです。同博士が『ガン・真菌説』を提唱してから、実際に『重曹殺菌法』を生み出すまでは、相当の紆余曲折を経たようです。様々な抗真菌薬を投与してゆくのですが、ガンはこれらすべてを跳ね返し、効果を得られなかったそうです。ガンの原因であるカンジダ菌コロニーは、こうした抗真菌薬への耐性を持ってしまっているという始末の悪いものだったのです。ところが実に身近な重曹、お風呂掃除やケーキ作りに使う、あの重曹です。この水溶液が頑固なガン・カンジダ菌撲滅に効果を発することを見つけたわけです。重曹は強いアルカリ性で、カンジダ菌はアルカリ性にはひどく脆弱で、しかも抗真菌薬と異なり使い続けても耐性が形成されないのです。さらに食品添加物分類の重曹溶液は、高価な現代抗がん剤新薬のような強い副作用もなく、長期にわたって効果が持続でき、全くの無害です。

この方法が確立してから、シモンチーニ博士のガン治癒率は96%にまで高まり、数千人ものガン患者が治癒され、驚異的な数字をたたき出す結果となっているそうです。

- ①重曹を水で薄めた5%溶液500mlを一日1回静脈から点滴する。
- ②これを6日間続け、次の6日間はビタミンCを投与する。
- ③これを4～6サイクル行うだけで、ほとんどのガンが消滅するというのです。

これだけの格安の治療で治ってしまうのであれば、医者には儲けがなく、ガン利権がからむ製薬会社も致命傷でしょうね。点滴はどうしても医師や看護師による必要があるのですが、困ったことなのですが、自分で投与する仕方が本には書かれております。詳しくは、『イタリア人医師が発見したガンの新しい治療法』(アマゾンでベストセラー！11月末まで入手不可能)という本をご参照ください。もう、ガンは怖くはないのです!!!ゴボウ茶を飲みましょう!(関係ないか…)

～治療法については一説であり、自己判断での投与はおやめください。～



行先が分からない旅を買えますか？



緊急事態も明けて、いよいよ『旅行したい!』と思っている方も多いのではないのでしょうか。しかし、帝国データバンクの調査によると、コロナ直撃の旅行業界では、今年の1月～8月に倒産、廃業した企業が136件となり、昨年1年間の129件を超える過去最多を更新しています。

そんななか、JTBが実施したアンケートでは、20代、30代の女性の7割が海外ではなく、国内旅行に行きたいと答えています。理由の多くは、コロナで影響を受けた観光地を支援したいとの優しい想いだとか…。

そんな国内旅行需要を後押しするかのようになり、大阪心斎橋に『旅くじ』なるものが登場しました。格安航空会社ピーチアビエーションが今年の8月に設置した『おみくじ型カプセル自動販売機』です。1回5,000円でガチャを回すと出てくる丸いカプセルの中に6,000円分以上のピーチポイントがもらえる交換コード、オリジナル缶バッジ、旅のミッションが書かれた紙が入っています。カプセルを開けるまで旅行先が分からないにもかかわらず、販売開始から2か月で3,000個も売れたそうです。

気になる旅の行先は、関西空港発着の沖縄から北海道まで国内13路線。旅のミッション

は「鹿児島で西郷さんのコスプレで犬の散歩をしてきて」などおちゃめな内容。そのミッション遂行写真をピーチのインターネットサイトに投稿すると抽選で次の旅に使えるポイントがもらえる仕組みです。

旅の重要な要素である行先を『運』で決めるドキドキ感に加え、旅先での飲食や買い物が支援につながる満足感が、若い世代にはウケるのかもしれませんが、「行きたくない旅先が出てきたら…」と心配する時点で、私はすっかりオバサンなんですよね。



健康法師の独り言 パート 111

『ゴボウ茶』 お勧めいたします！

この所、毎回お伝えしている『ゴボウ茶』ですが、血液検査の結果は皆様にも衝撃的であったと思われます。当の私も驚いたわけで、例の小島医師も『ゴボウ茶がなあ…、そないにエエか…ブツブツブツ…』。そうなんです、下手に投薬に頼るよりも何ぼもエエなあとして、社内でも強力に勧めております。何せ、歯ぐきの改善にもなっていることは意外中の意外でした。本当に血管を和らかく保って血流の改善をすることは、体の隅々まで変化させるようですね。

血液検査の結果が悪いとして多くの方が悩んではいるが、だからと言って何をどうして改善できるのやら分かんたというのが実情でしょう。食事の改善とか、やたらと歩けとか、運動せよとか、結構な無理難題を医者は言うものですよ。『そんなもん、やってられるかあ!』。つというのが大方の所かと思えます。アイスクリームも食べるし、バターもべたべた塗ってるし、ビールも飲むし…。平気!平気!

今回の『ゴボウ茶』の製造で、色々な点を気遣いました。何と言っても、①有効成分ポリフェノールを壊さない事。そして②お茶としての色や香ばしさも残すこと。③出し殻も食えることが出来ること。この3点のための工夫をしました。細切りカットが普通かもしれませんが、それでは焙煎が行き過ぎて炭化してしまい、栄養素が阻害されるので、厚切りのカット片にして表面だけの焙煎にして中の方の養分は残すことにしました。この形が出し殻も食べやすいという利点

さらに、ゴボウは皮の付いたままカットすることにして、歩留まりを改善しました。何せ、乾燥し焙煎をすると、重量が十分の一になってしまい、コスト高になります。皮を剥くとゴボウの歩留まりは60%ほどになってしまつて無駄が多くなります。もったいない!

今回、プレゼントのポットが大ブレイクしています。小さなポットの中でゴボウ様が踊る様子をぼおつと見ているの図…。なんか癒されるという人が続出しております。すでに立派な中毒症状ですね…。お勧めいたします。



踊るゴボウ様～

編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。健康法師のごぼう茶ブームはまだ続きそうです。事務所のキッチンで、毎日のようにガラスポットでごぼう茶をコトコトと沸かす健康法師をよく見かけるのですが、癒しの効果があるそうで、ポットの中で踊るごぼうが可愛く見えてくるとのこと。私は「真のごぼう茶信者」の境地まではまだまだのようです。 松村

